

# 支援利用者が食事に

## 甲府でNPO年末、4年ぶりに

NPO法人やまなしライフサポート(中山八十司理事長)は21日、甲府市中央2丁目の甲府カトリック教会で年末の交流食事を開いた。新型コロナウィルス禍で休止しており、4年ぶりの開催。食料支援の利用者とボランティアが同じテーブルを囲み、ビンゴゲームなどを通して交流を深めた。

約60人が参加。北杜市や山梨市の農家から寄付された里

芋や大根を使ったみそ汁や、カツカレーが振る舞われ、参加者は近況を語り合いながら食事を楽しんだ。

甲府市の男性(83)は「おいしくて食べ切れないほどの食事でうれしかった。ビンゴなど普段できない交流ができてよかった」と話していた。

同法人によると、年末の食事は2009年12月27日に初めて開催。新型コロナウィ

ルス感染症の5類移行後は定期的な炊き出しと食品配布を

併催してきた。

中山理事長は「週1回の食料支援の利用者は70人に上り、物価高のあたりを受けて生活保護受給者でも食費を切り詰める現状がある。つながりを切らさず、サポートを続けたい」と話した。

〈戸松優〉



利用者とボランティアと一緒に食事を楽しんだ交流食事会  
＝甲府市中央2丁目